2015 年夏

福島を感じて考えるスタディツアー

「スタ☆ふく」東和農業ツアー2015

“菜”発見　夏まるかじり東和ツアー

～自然と生きる自然に生きる　あるもの探しの 2 日間～

活動報告書

2015 年 9 月

企画：スタ☆ふくプロジェクト

助成：ふくしま未来学推進室　地域志向教育研究経費
住友商事　東日本再生ユースチャレンジ・プログラム—活動・研究助成—2015 年度

目次

0. 目次----------1

1. はじめに----------2

2. 企画背景----------3

3. 企画趣旨・目的----------4-5

4. 組織構成----------6-8

5. ツアー詳細----------9

①概要----------9

②アンケート結果----------10

③参加者の声----------11

④ツアー行程----------12-15

⑤担当者の声----------16-18

⑥本ツアーの価値・評価----------19-20

6. 広報／メディア掲載について----------21-23

7. ご協力いただいたみなさま----------24

8. 総括----------25-26

9. 問い合わせ先----------27

1．はじめに

福島のリアルを感じてもらえるようなツアーをつくろうと、2012 年 4 月から始まった『スタ☆ふく』のツアーも今回で 14 回目となりました。「スタ☆ふく東和農業ツアー 2015　“菜”発見　夏まるかじり～自然と生きる　自然に生きる　あるものさがしの 2 日間～」という今回のツアーは、15 名のお申込みをいただきツアーを実施することができました。東和でのツアー催行は、私たちの団体では最多の 5 度目となります。毎回テーマは、「東和の夏を体験する」「東和の人びとの生き方を知る」という二つのテーマから企画を作成させていただきましたが、この企画が実施できましたのは、私たちの企画に多くの方からご協力いただいているおかげであります。そんな方々へ感謝の意を込めつつ、より多くの方々に私たちの活動を知っていただくため、この報告書を作成しました。この報告書が、私たちの活動を知るきっかけとなれば幸いです。

１日目 地域の方との対談後の集合写真　―道の駅　ふくしま東和にて―

2. 企画背景

「福島の現状を実際に見て体験することで、福島への関心を深めてほしい。」という活動理念から、2012 年 4 月 JASP(Japan All Student Project)という団体の 1 プロジェクトとして発足し、その後福島を感じて考えるスタディツアーを作るため発足したのが「スタ☆ふくプロジェクト」でした。

これまで、いわき市・二本松市・会津若松などの県内 7 か所で計 13 回、ツアーを実施してきました。地域の人々との交流を中心としたプログラムを通して、福島のありのままの現状を見てもらい、その地域別の課題に向き合う人々の声を発信していくことで、風評被害の払拭や福島への関心を生み出すことで、震災からの復興や地域活性化の一助となるためのツアーの企画にあたっております。多くの方から、「これからもツアーを企画してほしい」というお声をいただいております。

企画者自身の私たち団体が、一番に「福島」から学び、ツアー参加者や地域の方々と共に「復興」について、福島や各地域の「未来」について、今後も考え、関わり続け、地域と参加者をつなぐ架け橋になるよう、今後も継続的に活動をしていきたいと考えております。

今夏の「東和農業ツアー2015」は福島県二本松市東和地区で行われました。この地域でツアーを行うのは今回で 5 度目となります。震災から 5 年目となった今も、風評被害など震災の影響は未だ続いています。しかし 5 年目という節目の年であるからこそ、東和地域の人びとは「自立」という言葉を理念に東和を支えようと活動しています。そんな東和地区で「夏の東和の暮らし」「東和の人びとの生き方を知る」というテーマで企画を行いました。外部から人が来ることで地域に新しい考えが生み出され、また参加者にとっては、東和での暮らしの中心である農業が一番盛んな時期である夏に体験し、農業にふれてもらうということ、また東和で暮らす人々の価値観や生き方を聞くことで、自身の今後の生き方や暮らしにつなげてほしいという想いから企画にあたりました。そして、地域の方々の想いや原動力を知り、継続に東和と関係をもつ人々の創出、また東和の課題でもある若者、女性不足の一助となり、結果として地域のより良い発展につながれば、と考えたことが本ツアー企画実施に至った背景となります。

3. 企画趣旨・目的

二本松市東和地区は平成の大合併で二本松市との合併が決まった時に、地域の名前を残したい、地域の暮らしを後世に残したいという理念から、地域の方が主体となってまちづくりに取り組んできました。地方の中山間地域が抱える、「少子高齢化問題、若者世代の人口流出、第一次産業従事者の高齢化」といった問題に、行政に頼り切るのではなく、地域に暮らす自分たちで取り組み、行動を起こしてきたのが東和地区です。取り組みの姿は震災後も変わらず、震災にもたらされた風評被害に対しても地域でできることを考え、取り組んできました。現在も有機農業やまちづくり、新規就農支援等に力を入れ確実な実績を生み出しています。また、農家民泊という地域の宿泊施設が生まれ、今も年々数が増えています。このツアーでは「夏の暮らし」をテーマに企画してきましたが、その中身は東和で暮らす“人”に焦点を当てています。

震災の実害・風評被害は現在も残っています。しかし、その状況の解決行政に任せきるのではなく、自分たちの生活であるからこそ自分たちで守ろうとしている取り組みを行い、自分たちの置かれている状況に逆らわず、できることは何だろうかと考え活動していく東和の人びとの、地域での暮らしを守り残したいという姿や想いを感じて考えてもらうこと、また放射能問題や風評被害のある福島の地域がそれらのもたらす問題や少子高齢化問題や後継者不足に対し取り組んでいる姿を、他の地域の人や、多くの世代の方に、発信していくのが課題先進地域と言われている福島の地域の役割なのではないかと考えました。そして、地域の課題の一つでもある若者不足、周知不足への一助につなげるために、訪れてみなければわからないそこに生きる人の想いを感じてもらい地域の人とのつながりをつくることで、継続的に東和に関係を持ってくれる東和のファンのような存在を創出する事を目的としています。

＜企画目的＞

・東和と参加者の継続的な関係のきっかけづくり
・参加者に、地域への愛着の創出。
・東和地域と当団体の継続的なつながり

＜企画目標＞

定性目標≫
・参加者が東和に関心を持ち、東和との継続的な関わりを考えている。
・夏の東和の暮らしを知り、愛着を持っている。
・東和の取り組みについての知識がある。

定量目標≫
・参加人数：18 人以上
・参加者満足度：95%以上

＜企画コンセプト＞

・東和の夏を体験する
東和の中心である農業を、最も盛んに行われる夏に体験してもらう。

・東和の人の生き方を知る
地域の課題解決に向けて活動している人の姿、東和の生活の姿を知ってもらう。

4、団体概要

【組織構成】

『スタ☆ふくプロジェクト』は 2013 年 4 月に母体団体であった『全国学生プロジェクト(JASP)』から分離独立しました。スタディツアー事業の活動開始は 2012 年 4 月であり、これまで福島県いわき市、二本松市、喜多方市などでスタディツアーを実施してきました。全メンバーが福島大学の学生によって組織された組織で、2015 年 9 月 6 日現在 17 名で活動を展開しています。

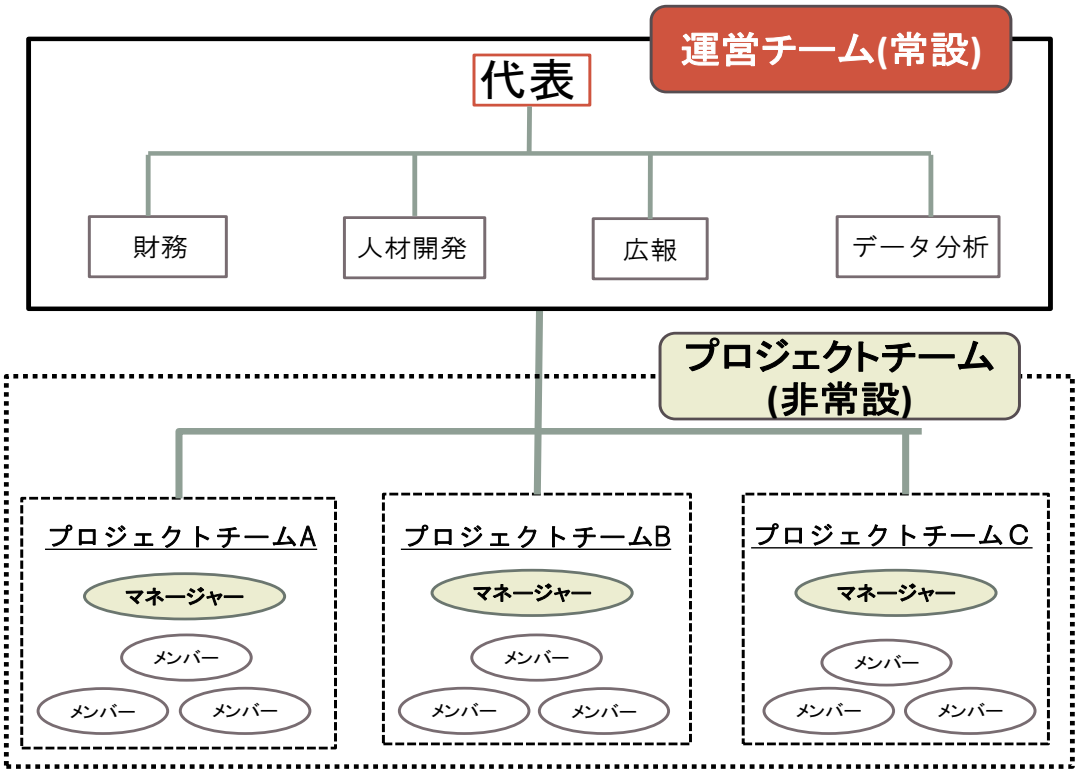
【ビジョン】

「先進的な地域活性化モデルとしての福島」

【受賞歴】

2013 年 6 月 観光庁主催『若者旅行を応援する観光庁官賞「東北ブロック賞」』受賞

【組織図】



【構成メンバー（2015 年 9 月 6 日現在)】

～運営チーム～
代表 羽賀さやか 行政政策学類 3 年
財務 田辺将大 共生システム理工学類 3 年
人材開発 渡部直子 人間発達文化学類 3 年
広報 三浦菜生 行政政策学類 3 年
データ分析 阿部晴佳 行政政策学類 3 年

～活動メンバー～
武藤茉奈美 人間発達文化学類 4 年
吉田江里 人間発達文化学類 4 年
遠藤はるひ 経済経営学類 4 年
安斉舞 行政政策学類 4 年
青木悠里 人間発達文化学類 4 年
國分花菜 経済経営学類 4 年
吉田光希 経済経営学類 4 年
黒澤和也 経済経営学類 3 年
平澤和弥 経済経営学類 2 年
宝槻亮汰 行政政策学類 1 年
菊地実咲 人間発達文化学類 1 年
牧内美樹 経済経営学類 1 年
プロジェクト開始：2012 年 4 月 団体発足：2013 年 4 月

【過去のスタディツアー～】
2012 年 8 月 「スタ☆ふく水産漁業ツアー」 いわき市（32 名動員）
2012 年 9 月 「スタ☆ふく観光ツアー」 喜多方市（27 名動員）
2012 年 9 月 「スタ☆ふく農業ツアー」 二本松市（25 名動員）
2012 年 12 月 「スタ☆ふく冬ツアー」 二本松市(18 名動員）
2013 年 8 月 「スタ☆ふく水産漁業ツアー2013」いわき市(37 名動員）
2013 年 9 月 「スタ☆ふくまちづくりツアー」 二本松市（33 名動員）
2013 年 11 月 「スタ☆ふく福島の子どもツアー」 郡山市（15 名動員）
2013 年 11 月 「スタ☆ふく福島の食ツアー」 福島市（12 名動員）
2014 年 8 月 「スタ☆ふく保原×霊山おたのしみイベント」伊達市（20 名動員）
2014 年 8 月 「スタ☆ふく水産漁業ツアー」 いわき市（32 名動員）
2015 年 2 月 「スタ☆ふく日本酒ツアー」 会津若松市/坂下町（19 名動員）
2015 年 2 月 「スタ☆ふく田舎暮らしツアー」 二本松市（16 名動員）
2015 年 8 月 「スタ☆ふくいわき水産漁業ツアー」 いわき市（40 名動員）

【団体連絡先】
〒960-1296 福島県福島市金谷川１ 福島大学学生課 「スタ☆ふくプロジェクト」
Mail：suta.fuku@gmail.com

5、①ツアー概要

【タイトル】
「東和農業ツアー2015」“菜”発見！夏まるかじり東和旅
～自然と生きる自然に生きる あるもの探しの２日間～

【実施日】
2015 年 9 月 5 日（土）～9 月 6 日（日）

【実施場所】
福島県二本松市東和地区

【参加者動員数】
計 15 名

【参加スタッフ】
阿部晴佳　（プロジェクトマネージャー・福島大学 3 年）
渡部直子　（福島大学 3 年）
宝槻亮汰　（福島大学 1 年）
田辺将大　（福島大学 3 年）
羽賀さやか（福島大学 3 年）
三浦菜生　（福島大学 3 年）
菊地実咲　（福島大学 1 年）
黒澤和也　（福島大学 3 年）

＜参加料金＞
16,500 円(学生 10 名には学生料金適用で 13,500 円)

②ツアー満足度全体平均

3.9/ 4.0　ポイント

	悪			良		
	1	2	3	4	計(人)	平均
①ツアー全体について			2	13	15	3.9
②料金			1	14	15	3.9
③タイムスケジュールについて			2	13	15	3.9
④お食事について			1	14	15	3.9
⑤宿泊施設について			2	13	15	3.9
⑥スタッフ対応について			1	14	15	3.9
⑦コンテンツについて			1	14	15	3.9
					全体平均	3.9

4⇒満足

3⇒どちらかといえば満足

2⇒どちらかといえば不満足

1⇒不満足

○ツアー参加者状況　　（参加者回答母数＝12）

若年層比率　74%（10～20 代計）

学生：社会人　＝　7:8

県内：県外　＝　7:8

③参加者の声

・地域振興まちづくりに興味があるので、地元の農村地域で活かせたらと思う。どんな人でも温かく迎える精神を活かしたい。自給自足できる農業をしてみたい。（10 代　男性）

・自分が農家になりたいという気持ちが一層強くなりました。地域活性化の中で魅力づくりに取り組む姿を自分の所属する団体でもいかしたい。新規就農者や若者に農業で生きる暮らしを伝えることを将来したいと思った。（10 代　女性）

・将来の職業がまだ明確でないため、地域の方の生き方を知り、自分の生き方の参考になった。民宿にも個人的にまた行きたいし、福島の他の地域にも行ってみたいと思った。東和は本当にいいところでした。（10 代　男性）

・今回のツアーを機に福島の人びとに対するイメージがものすごく変わり、村民の方のエネルギーを感じることができました。今回学んだことを持ち帰り、大学から関西から発信できることはしたいと思いました。（20 代　女性）

・周辺への人を受け入れようとする姿勢や言動、自分で考えて、その場に適応していく、現状に不満を言わない姿に感銘を受けた。大学でボランティアの団体にも所属しているので、参考にさせていただきたいところが多々ありました。（20 代　男性）

・いいところたくさん知れました。逆に自分にできること、すべきことは？と考えた時に、被災地へ支援なくても、もういいのかな。と思ったので、福島についてまた勉強したりまた来たいです。（20 代　女性）

・知らないことを知ることができたので、仕事や私生活において視野が広がったことを反映させていきたい。他のモデルとなる地域と思う。（30 代　男性）

④ツアー行程

1 日目 9 月 5 日（土）

9:30	郡山駅集合	
11:10	道の駅ふくしま東和到着	
11:20	基調講演	NPO 法人ゆうきの里ふるさとづくり協議会理事長の武藤一夫さんから、東和地区の農業やゆうきの里の取り組みについてお話を伺いました。
12:10	昼食＆自己紹介	道の駅ふくしま東和で誕生した「あだたら恋カレー」をいただきました。同時に自己紹介をしました。

12:55	地域の方との対談	引き続き武藤さんに進行をお願いし、東和生まれ東和育ちの大野さん、新規就農者として移住した関さん、高木さん、小林さんとその奥様から、東和の暮らしや、農業についてのお話を聞きました。参加者からは多くの質問が出て、休憩時間も惜しいほど盛り上がりました！
14:55	手作り工芸体験	ふくしま農家の夢ワインの斎藤社長から教わって、竹コップを作りました。竹の長さや太さ、やすりのかけ具合によって個性ある作品ができました！
17:10	各民宿へ	参加者・スタッフが 5 つに分かれ農家民泊！民宿ごとに素晴らしいおもてなしがあり、民宿の方との交流はとても盛り上がりました。

2 日目 9 月 6 日（日）

～7:00	収穫体験	早朝、各民泊先で野菜を収穫しました。この野菜は BBQ で使用します！
10:35	ワイナリー見学	ふくしま農家の夢ワインを訪れ、製作施設を見学しました。斎藤社長から、ワイナリー設立の経緯やその想いなどのお話をいただきました。
11:35	BBQ	朝収穫した野菜を使い、インストラクターの方をお呼びして、スマートバーベキューをしました。いつもとは一味違ったメニューがたくさんあり、作り方もユニークでした。もちろん、とてもおいしかったです！
13:40	道の駅到着	ここでお土産購入！

14:00	まとめ・ふりかえり	まずはペアで、そしてグループで東和の魅力を共有しました。その後、東和の魅力を東和に来たことのない人に伝えるつもりで一人ずつ発表してもらいました。
17:30	郡山駅参加者解散	みなさん、2 日間お疲れさまです！

⑤担当者の声

今年の 6 月頃、このスタ☆ふくプロジェクトに加わりました。
東日本大震災の後、原発事故の風評にさらされている福島の現状を五感で感じる、というスタ☆ふくの活動方針にどことなく共感し、加わることを決めました。

今年度の東和のツアーに関わるなかで、震災から 4 年がたっている中でも、根強い風評が未だに存在していること。
その中でも、東和の地域の方々は自らの活動で少しずつ前に進もうとしているのだな、ということを感じとることができました。

東和で主体的に活動をする方々と交流してゆくことで、自分が新たに学びとることも多く、生活のなかで参考になることも沢山ありました。
2 日間の東和旅の中で、皆様の中で新しいものを″菜″発見して頂き、これからの皆様の生活がより良いものとなってゆきますよう、願っております。

東和農業夏ツアー2015 年度ツアー担当者
福島大学 1 年　宝槻亮汰

大学 2 学年の春にスタふくの一メンバーとなってから約 1 年半が経ち、今回の東和農業ツアーは私にとって企画メンバーとして携わった 3 回目のツアーでした。また東和地域でのツアーは今回で 5 回目でありますが私は 4 回目のツアーにも企画メンバーとして携わっており、2 回連続で東和ツアー企画メンバーとして活動させていただきました。
今回の東和ツアーを企画するにあたり、前回の東和ツアー企画メンバーとしての経験を活かせる場面も多くありました。地域の方との連絡先や連絡をとる際の注意、地域の方々の活動の様子など、主に地域内部の事に関してです。スタふくのツアーは地域の方の協力や理解があってこそ成り立っているものなので、元々地域へのつながりを持っていた事は今回のツアーを進めるにあたり多きく関係していたのではないかと思います。
また、東和地域は震災以前から地域活性や新規就農支援、有機農業といった住民主体の活動が盛んで、今年の 2 月にも新規就農支援で全国的な表彰された地域です。震災後、他県よりも 20、30 年近くも過疎化や少子高齢化が進んだともいわれている福島県ですが、震災後も活動の実績が評価されている東和地域はそういった課題を解消すべくいち早く対応していく“課題解決先進地域”としての一面を見せることのできる地域であると私は考えています。
しかし、東和地域は地域の方や東和に訪れた方からは「来れば（行けば）好きになる」「人が良い」という言葉が聞かれる地域です。この言葉は 4 回目の東和ツアーを通し自分自身も実感していたことでしたが、逆に言えば、来なければ地域の良さが伝わりづらい地域でもあ

ります。ツアー参加者募集期間は“来なければわからない東和の良さ、人の良さ”をどう言葉で表現でき、人へ伝える事が出来るのかという点に大いに悩み、ツアー周知や集客の面では四苦八苦することとなりました。東和地域の良さや東和ツアーをどう人へ伝えていくことが出来るのか、という点は今後解消していくべき課題だと強く感じました。
また、ツアーを実施してみて、今回の参加者の方は「被災地でのツアーだったから」「実際に農業を体験したいから」「東和へ来たかったから」といった様々な理由で参加してくださいました。前述の通り、東和地域は震災後も現状に向き合い住民みながたくましく活動している姿を見せることのできる地域であるので、参加者の方々が参加した目的は多少なりとも果たすことが出来たのではないかと思っています。加えて、参加者が今回の東和ツアーで考える東和の良さを話す時間では、ほとんどの方から地域の人の穏やかさやたくましさといった“人の良さ”を自分の言葉で話しており、何よりも東和の方々の“人の良さ”を伝えたかった私たち企画メンバーの想いを伝えること出来たと感じ、本当に嬉しく思いました。
そして、今回のツアーは最終的に参加者へ東和地域への愛着を持ってもらい今後も東和へ関わってくれる人の創出を目的としたツアーでした。ツアーを終えてみて、愛着を持ってもらえたと感じていますが、今後も地域へ関わってもらえるのか、そして関わってくれたかどうかをどう判断し評価していくのかといった方法を見つけること、5 回目のツアーを終えてみて東和地域に自分たちの活動はどう影響しているのか、本当に地域のために意義ある活動が出来ているのかと言う事を考えていくことも、5 回と言うスタふくで最多回数開催している地域のツアーだからこそ、考えていかなければならない事だと感じました。
私自身は今回のツアーを通し、“人のつながり”を強く実感しました。それは、4 回目の東和ツアーに続き私たちに協力してくださった東和の方々とお話している時、ツアー告知や広報に協力してくださった方から激励の言葉をいただいたとき、団体のメンバーと東和ツアー開催のために目一杯動いていた時、今回のツアー参加者が生き生きと自分の言葉で東和の方々について人に向けて伝えている姿を見た時です。スタふくは色々な方々に支えられ、見守られて活動出来ているのだと改めて強く感じましたが、それは人と人とのつながりがあってこそで、今後も自分自身が“つながり”を大切にし、活動をしていきたいと改めて思いましたし、このスタふくと地域とのつながりを今後も続けていかなければならないと感じました。
最後に、今回の東和ツアーが無事に終えることが出来たのは、これまでツアー開催までに携わってくださった皆さま、応援してくださっている多くの皆さまのおかげです。本当にありがとうございました。これからもスタ☆ふくを、どうぞよろしくお願いいたします。

東和農業夏ツアー2015 年度　ツアー担当者
福島大学 3 年　渡部直子

福島大学に入学し、友人の震災での話を聞くうちに、何か福島の助けになることをしたいという想いからスタ☆ふくプロジェクトに入り、初めて作り上げたツアーがこの東和農業ツアーでした。

スタ☆ふくプロジェクトに入るまで、東和地区の存在事体を知らず、今年２月の東和田舎暮らしツアーでも当日参加できなかったため、今回のツアーの企画の際に初めて関わった地域でした。団体メンバーや事前の調べで、東和の特色や取り組んでいる活動についての知識は知っていたのですが、東和の人々と関わってみて初めて地域づくりの先進地域である理由が改めてこの地域の人びとの東和への想いであるということがわかりましたまた、スタ☆ふく自体、以前から東和とのつながりがあったこともあり、地域の方々がツアーへの協力を快く引き受けてくださり、また企画の上でのアイディアやアドバイスを下さって、東和地域の人々の温かさにとても助けられました。
今回のツアーは参加者に東和の暮らしを体験してもらうこと、また東和の人の生き方を知ってもらうことをテーマとして定め、企画を作り上げていきました。そのため、震災の被災地である福島について学びに来られた参加者の方には目的を達成できないのではないかと少し懸念しておりました。

しかし、ツアー最後のまとめと振り返りの東和の良い所を話していただいたときに、東和の人の温かさや、活発な姿を知ることができたという声が多く聞かれ、また訪れて福島について学びに着たいという声をいただき、私たちの一番伝えようと考えていた東和の人の活発さ、温かさ、前向きさを参加者に伝えることができたのではないかと思い、このツアーを行った意味を感じることができました。
震災から５年たち、強く行政からの自立を求めている東和地域の姿を、東和と同じような課題をもつ地域の参考にしてもらうために紹介すること、またこれから自立をして行こうとする東和を支援するために東和の活動を周知させていき、福島の復興や活性化のために福島の姿を伝えていくのは福島の発展にとっても非常に大切なことであり、続けていくべきことであると改めて今回のツアーを通して感じました。
今回のツアーは多くの地域の方に協力をしていただいたことで、企画を催行することができました。関わっていただいた地域の皆様はじめ多くの方に感謝しております。ありがとうございました。

東和農業ツアー2015　プロジェクトマネージャー
福島大学３年　阿部晴佳

⑥今回のツアーの価値・評価

2015 年 9 月 9 日ツアー反省会より

自分たちがツアーを実施することにより、どのような「価値」を参加者、地域に提供できたのか述べていきます。今回のツアーによってどんなことが成し遂げられているのか、またツアーでなし遂げられなかったことは何か、また今後の継続していく意義も含めながら考えました。

■本ツアーによって成し遂げられたこと

(1)地域にとって

・東和の魅力の再発見・再認識できた
・地域の方同士の意見交換をすることができた。
・自分たちの活動を言葉にしてまとめることで、活動の意義を改めて再認識できた。
・地域に生きる人と地域に外の人との新たなつながりをつくることが出来た。
・普段は関わる事のない地域の人同士の交流の場を持つことが出来た。
・東和について知る人が増えた。

(2)参加者にとって

・直接現地に行かなければわからない東和の人の温かさを知ることができた。
・農家民宿、農業の実際の体験
・参加者自身の今後の生き方や、将来の暮らし方のヒントの提供
・農業に対するイメージの変化
・今後も東和、福島を応援し、関わりたいという気持ちの醸成

(3) スタ☆ふくにとって

・5 回目のツアー開催することで地域に継続的にかかわる意思表明となった
・新たな地域の方、また参加者とつながりを得ることができた。
・メンバー自身の将来の進路や生き方のヒントを得られた

■本ツアーによって成し得なかったこと

・団体の次世代のメンバーの一部しかツアーに関わらせることができなかった。
・参加者が今後、地域にどのように関わっていくのか、具体的行動で提示すること
・地域における具体的なツアー効果の提示。
・福島大学事体との関係の創造
・震災による被災地としての発信があまりできなかった

■今後のツアー展開と二本松地域との関わりについて

東和という地域は震災前のスタふくが関わる以前から住民が主体で地域づくりや町おこしをしてきた地域で、大学の研究機関など多くの外部団体との活動も行っています。地域の NPO 団体や企業が地域活性化や外から人をよぶために多くの取り組みや活動を行っています。また、今回のツアーの地域リサーチの際に、地域の中心となっている方の他にも、東和地域には様々な活動を行っている方を多く紹介していただきました。その方たちにも、今後のツアーでは焦点を当てていきたく感じました。東和の地域の方々は、来れば魅力がわかるからまず東和に来てもらいたい、とみなさん言われます。地域に関わる方を増やしたいという、地域の方のニーズのために私たちスタ☆ふくが参加者を東和に人を連れていくというのが、東和に貢献するための姿の一つなのではないかと考えました。

しかし、スタ☆ふくがツアーを開催することで、地域の魅力を知ってもらうことを中心とした企画だけで、「東和における地域活性、風評被害の払拭」に貢献しきれているとは考えられません。これまでのツアーの内容や地域とのかかわり、また地域の様子やニーズについて改めて学んでいくとこで、地域に貢献するためのツアーとは何か、スタ☆ふくが今後どう東和と関わっていくべきか団体で考えていきたいです。

６、広報・メディア掲載について

＜宣伝方法・経緯＞

7 月 1 日	募集開始
8 月 22 日	ツアー催行決定

・スタ☆ふく HP（http://sutahuku.jimdo.com/）
・Facebook ページ
…イベントページ作成、リレー投稿、参加希望者へコンタクト
・twitter アカウント（@Study_Fukushima）
　　…準備の進捗状況やツアー告知などをこまめに発信

・テレビ局、ラジオ局、新聞社への取材依頼
・告知協力のお願い
　－福島大学教授、ゼミ
　－各大学のボランティアサークル、学生団体、
　－ボランティア、観光、水産漁業に関連する団体
・福島大学第 79 回定例記者会見（7 月 1 日）
http://www.fukushima-u.ac.jp/press/H27/detail79.html
・スタッフの知人を通した告知
・東京出張

＜メディア掲載履歴＞

▽ラジオ
・7 月 27 日　FM ポコ(FM76.2)
「みんなのラジオ～FUKUSHIMA TOWN VOICE～」生放送
・8 月 1 日　ラジオ福島
「ふくしまの絆ステーション」 収録

▽新聞

・7 月 9 日　東京新聞もぎたて直送便（有料広告）

・7 月 23 日　福島民報

http://www.minpo.jp/pub/topics/odekake/2015/07/post_4914.html

・7 月 20 日　毎日新聞

http://mainichi.jp/edu/news/20150720ddlk07040046000c.html

「復興の現状体感して」

福島大生　研修ツアー参加者募集

福島大の学生がつくる団体「スタ☆ふくプロジェクト」が、いわき市の漁業や二本松市の農業の現状を体感してもらう1泊2日の研修ツアーの参加者を募集している。企画した田辺将大さん(20)は「震災から4年以上がたった福島の現状を知らない方に来てもらい、地域の人との交流や、おいしい食べ物など五感で魅力を感じてほしい」と呼びかけている。

いわきのツアーは8月22、23日に開催。「漁師に寄り添い、いわきの漁業を身近なものに」をコンセプトに、放射性物質の検査の様子を見たり、漁師とバーベキューなどを通して交流する。定員は38人。募集は7月31日まで。

二本松のツアーは9月5、6日。「東和の夏を体験する、東和の人の生き方を知る」がテーマ。有機農業が盛んな同市東和地区を訪れ、農作業を体験したり農家に泊まって住民と交流する。定員は22人。募集は8月14日まで。

対象は県内外の学生・社会人。料金はいずれのツアーも1泊2日4食付き一般1万6500円、学生1万3500円。学生料金での申し込みは先着順でいわきが20人、二本松が10人の募集。

同団体は、風評被害の払拭や地域活性化を目的に、2012年4月に学生の有志で発足。これまで福島や郡山、喜多方などで計12回の研修ツアーを実施している。

申し込みは福島交通観光（☎024・531・8950）。【横田香奈】

◆県内の放射線量(19日正午)◆

福島市	(63㌢北西)	0.21	
郡山市	(58㌢西)	0.12	
白河市	(81㌢西南西)	0.09	
会津若松市	(98㌢西)	0.06	
南会津町	(115㌢西南西)	0.04	
南相馬市	(24㌢北)	0.10	
いわき市	(43㌢南南西)	0.07	

※単位はμSv/毎時。カッコ内は福島第1原発からの距離。

・9 月 9 日　福島民報

9日（水曜日）　福島民報

東和の現状を紹介

福島大生企画、農業ツアー

福島大の学生でつくるスタ☆ふくプロジェクトが企画した「東和農業ツアー2015」は五、六の両日、二本松市東和地域で開かれた。

プロジェクトは東日本大震災後の本県の現状を伝えようと平成二十四年から県内ツアーを企画している。

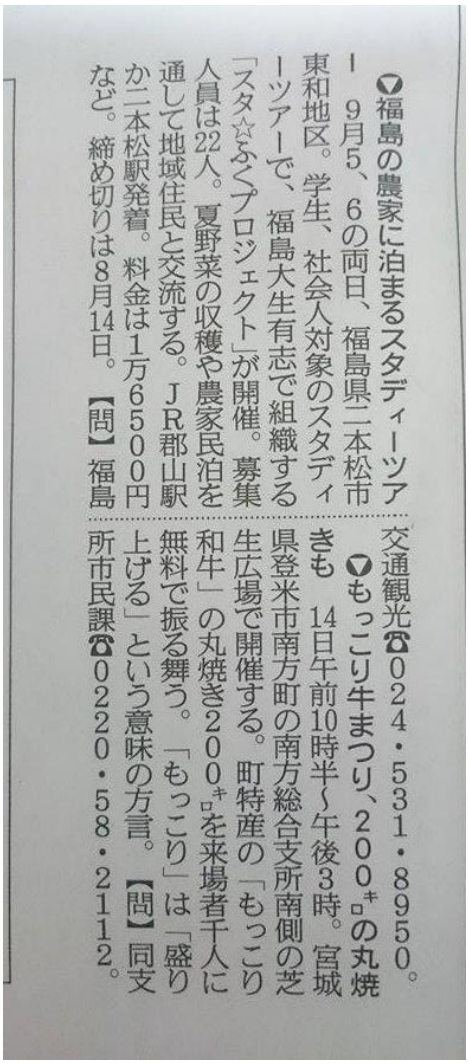
十五人が参加し、ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会が取り組んでいる有機農産物の生産、販売の現状を学んだ。

初日は道の駅ふくしまで東和で武藤一夫協議会理事長の基調講演を聴いた。里山を生かした安全な野菜作りについて理解を深めた。竹コップ製作を体験し、農家民宿に宿泊した。

最終日は野菜の朝採り体験や、ワイナリーを見学した。東和地域産の夏野菜を材料にしたバーベキューに舌鼓を打った。

武藤さんの話を聞く参加者

・9 月 11 日　産経新聞



▼福島の農家に泊まるスタディーツアー　9月5、6の両日、福島県二本松市東和地区。学生、社会人対象のスタディーツアーで、福島大生有志で組織する「スタ☆ふくプロジェクト」が開催。募集人員は22人。夏野菜の収穫や農家民泊を通して地域住民と交流する。JR郡山駅か二本松駅発着。料金は1万6500円など。締め切りは8月14日。【問】福島交通観光☎024・531・8950。

▼もっこり牛まつり、200キロの丸焼きも　14日午前10時半～午後3時。宮城県登米市南方町の南方総合支所南側の芝生広場で開催する。町特産の「もっこり和牛」の丸焼き200キロを来場者千人に無料で振る舞う。「もっこり」は「盛り上げる」という意味の方言。【問】同支所市民課☎0220・58・2112。

７、ご協力いただいたみなさま

＜企画＞

・NPO 法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

・めぐり農園 小林正典様・小林愛恵様

・ハーモニー

・梅谷勝義様

・ふくしま農家の夢ワイン株式会社

＜企画実施＞

(株)福島交通観光

８、総括

2012 年 4 月にプロジェクトが発足したスタ☆ふくプロジェクトのメイン事業であるスタディツアーも今回で 14 回を数えるに至りました。今までこのようにツアーを開催することが出来たのは、地域の関係者をはじめ、毎回多くの方々のご理解とご協力を頂いているおかげです。私たちが恵まれた環境にいることに感謝しつつ現状に満足せず、団体、そして福島の更なる発展のためにチャレンジし続ける姿勢を大切にしていきたいと感じています。

東日本大震災、原発事故直後、福島県は日本や世界中から良くも悪くも大きな注目を浴びることとなりました。しかし、震災から 4 年半が経過した現在はどうでしょうか。目まぐるしく変化する世の中で福島に対する関心が徐々に低下していくことは仕方のないことです。そのような中で風化をどのように防止するか、福島が復興した姿とは一体何のか、活動しているうえで非常に頭を抱えた部分です。

しかし、私たちの目指すべきものは「先進的地域活性化モデルとしての福島」の実現です。これは震災復興だけに留まらず、私たちの活動を通して、参加者と地域の人々双方向の交流や主体性を喚起することで、ともに地域がより良くなる活動をおこし、福島から地域活性化としてのモデルを発信していくということです。私たちの主軸となっているスタディツアーは、徐々に見えにくくなってきている震災の爪痕をあえて掘り出して見てもらうのではなく、今の、ありのままの福島や福島に生きる人々の姿を、実際に福島に足を運ぶことにより五感で感じてもらいたい、という想いから企画実施しています。ツアーという形をとることで「被災地福島」としての側面だけでなく、地元の人との交流や体験をしながらともに時間を共有することで福島に愛着を持ったり、未来を考えることが出来ると感じています。その地域と参加者、私たちスタ☆ふくの緩やかかつ強い繋がりが、微力ではありますが、福島の震災からの復興、そして地域活性化の一助となるのではと考えています。

特に今回ツアーを実施した二本松東和地区は震災のピンチをチャンスに変え、住民が主体となって地域づくりをしています。東和の人々の生き様を地域リサーチで紐解きツアーで参加者に丁寧に伝えていくこと、地域の人々のあたたかいおもてなしを受けることで東和に生きる人々の魅力を最大に魅せられたと感じています。その一方で、「東和を好きになるだけで良いのだろうか」という疑問を持ったことも正直な点です。ツアーという形をとると、当日は参加者も地域の方も非常に盛り上がるのですが、ツアーが終わった後、地域や参加者にどのような変化や価値が生み出せたのかが分かりにくいという課題があります。今後、ツアー後に地域の方、参加者そして私たちも何かアクションを起こせる仕組みを考えていく必要があると考えます。

来年度は震災から5年が経過するということで、様々な震災に関係した支援や計画等に一区切りがつくことが予想されます。そんな時だからこそ福島にいる学生だから出来る、地域に寄り添った企画を作っていくことを今まで以上に大切にしていきたいと思います。

最後になりますが、私たちは、地域の方々のご協力や広報や企画へのアドバイスなど様々な方々のご協力があって活動することが出来ております。改めて地域の方々、日頃から応援してくださる多くの皆様に心より御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻いただきながらスタ☆ふくプロジェクトを応援してくださると幸いです。

2015年9月

スタ☆ふくプロジェクト代表　羽賀さやか

９、お問い合わせ先

スタ☆ふくプロジェクト
代表：羽賀さやか

住所：福島県福島市金谷川１
福島大学学生課
スタ☆ふくプロジェクト　宛

編集
「スタ☆ふく」プロジェクト　東和農業ツアー2015　担当

福島大学　　行政政策学類３年　阿部晴佳（プロジェクトマネージャー）
福島大学　人間発達文化学類３年　渡部直子
福島大学　　行政政策学類１年　宝槻亮汰

福島大学　　行政政策学類３年　羽賀さやか（団体代表）
福島大学　　行政政策学類３年　三浦菜生
福島大学　人間発達文化学類１年　菊地実咲